様式3

学 校 番 号

中等1

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立輝翔館中等教育学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

			評　価（総　合）
学校運営方針	「自ら進んで、意欲的に新しいことに取り組み、自分の考えで新しいものを作り出す」の理念のもと、県内唯一の中等教育学校として、次代を担うACE（エース）を育成する		A
昨年度の成果と課題	令 和 5 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
昨年度はコロナ禍による制限がある中で学校行事を遂行することができた。 今年度は広報活動の改善・充実により志願倍率1.25倍を達成することが最大の課題である。	1 思考力・判断力・表現力の強化、主体的・対話的で深い学びを実現する	・「一人一台端末」を活かした授業改善による生徒主体の「深い学び」を推進する ・ICT機器を利用した「原稿なしスピーチ」を推奨し、生徒の「プレゼンテーション能力」を高める	
	2 生徒のよい点や進歩の状況を評価して、学習意欲や自己肯定感を高める	・「指導と評価を一体化」させた「工夫した授業」、「感動を与える行事」の充実を図る	
	3 発達段階に応じた効果的な指導方法を実践する	・「規範意識」に富み、「チャレンジ精神」にあふれた活気ある生徒を育成する	
	4 生徒の自主的活動の活性化を図る	・「生徒会活動の活性化」「知的チャレンジ活動」「ボランティア活動」等を推進する	
	5 前期課程生徒と後期課程生徒の交流により自己教育力を高める	・生徒の「心を磨き」、自然災害や感染症に負けず「笑顔で活力ある生活」を送らせる	
	6 本校からの情報発信及び地域社会との連携強化を図る	・創立20周年事業を通して、生徒に「活躍の場を提供」し、「愛校心」を高める	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
総務部（企画広報）	令和6年度入学者選抜志願倍率1.25倍（志願者150名）の達成	生徒が活躍する説明会を企画運営し、本校の魅力をアピールする。	B	B	B	・受験者数が昨年度の121名から99名と大きく減らす結果となった。このことを受け、今年度中に来年度の広報戦略会議を設け、生徒募集のあり方を変えていく。 ・学校行事をコロナ前に徐々に戻しながら、不要なものをなくしていくことに力を入れた。結果、行事のスリム化ができたと思っている。今年行ったことを元に来年はさらなるバージョンアップを図りたい。 ・PTAの規約の改定では、職員や保護者の意見を取り入れることができた。来年度はPTA業務の見直しを行い、さらなる効率化を図りたい。
		小学校、塾に対して定期的な訪問、広報物の送付を行う。	B			
	生徒の活躍の共有と帰属意識の高揚	生徒の活躍を表彰するため、表彰式、受賞報告、生徒発表を定期的に行う（対面、オンライン）。	A			
		校内掲示や学校ホームページ等で学校行事や生徒の活躍を紹介する。	A			
	儀式的行事の円滑、丁寧な運営	反省を踏まえて行事を企画立案し、反省評価を確実に次年度に引き継ぐ。	A			
		管理職、関係部署との打ち合わせ、連絡調整を密に行う。	B			
総務部（庶務）	教育活動の効率性、安全性の向上と働きやすい環境の整備	迅速かつ正確にデータ処理を行い、チェック体制を強化する。	B	B		
		管理責任を明確にし、全職員に協力を求める。	B			
	関係団体との協力体制強化と教職員間の連携深化	関係団体に学校行事および教育活動の説明を丁寧に行い、理解と協力を仰ぐ。	A			
		麗葉会月当番を支援し、全職員の協力を仰ぐ。	A			
教務部（教務）	学校運営の基礎となる各指導計画等の立案	各教科主任会等を中心に、連絡調整を図る。	A	A	A	・公開授業・研究授業や校外研修等の情報を共有し、学力向上や学習意欲を高める授業の実践に努めた。さらに学年教科の到達目標を明確にし、目標達成のための授業方法の工夫・改善に取り組む。 ・年間指導計画とルーブリックを一体化し、学習指導の改善に生かすよう学校全体で組織的に取り組み、生徒の学びの深まりを把握することができた。次年度はさらに改善し授業評価の充実を図る。全生徒に1人1台のICT機器が整備され各教科ICT機器を活用し主体的・対話的で深い学びにつながる授業を行った。今後は自主的な学習の育成と学習習慣の確立を図る。 ・校務支援システムを運用することで生徒データを一元管理・引用できることにより作業負担やミスは軽減された。さらに校務を効率的に行うためのシステムを用いて、業務改善を実現できるように努めていく。 ・多くの先生方がデジタル採点システムを活用し採点業務の効率化を図ることができた。さらに採点結果の分析を活用した個に応じた指導の充実、生徒自身の学習の振り返りの充実を図る。
		各学年と連携し、情報の共有を図る。	A			
		学年と連携し、科目選択・文理コース選択説明会を行う。	A			
		各提出書類・計画等について、他分掌との連絡調整を密にする。	A			
	新学習指導要領に対応した教育課程の研究	校外研修会等への積極的参加と校内への還元を図る。	A			
		生徒の進路実現に対応した学校設定科目を検討する。	A			
	観点別評価に基づいた的確な評価法の研究	ルーブリックと一体化した評価方法や目標準拠評価について研修会を行う。	A			
教務部（学習指導・入試）	学力向上のための更なる授業・指導法の改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	A	A		
		授業アンケートを実施し、授業改善につなげる。	A			
		課題や補講を活用し、個に応じた指導を充実させる。	A			
	基礎・基本を定着させる学習指導と学習意欲の向上を促す	前期課程においては、学習支援システムを活用し基礎的事項を繰り返し指導する。	A			
		後期課程においては、教科と連携し家庭学習の定着を図る。	A			
	定期考査の採点業務の効率化を図る	採点ナビシステム等を用いて、採点の業務改善を実現できるように努める。	A			
	入学者選抜業務・入学者説明会及び編入学者選抜業務・編入学説明会を円滑に進める	入学者選抜及び編入学者選抜業務の計画・立案等、教務班と連絡調整を密にする。	A			
		入試業務に関する様々な提出書類について、事務部との連絡調整を密にする。	A			
		令和6年度編入学者（第4学年当初）選抜志願者数10名を達成する。	A			
進路部（進路指導）	希望進路実現へ向けての系統的な指導と積極的取り組み	学年行事や各講演会に連続性を持たせ、生徒の進路決定の一助となるよう、内容や実施時期を見直す。	A	A	A	・外部講演会はオンライン形式で実施されることが多く、様々な制約が減り参加しやすくなったので、次年度は積極的にオンライン講演会の参加を呼びかけ、職員の実践力向上を図る。 ・次年度は新課程の大学入試が実施されるので、職員ポータルサイトを活用して、迅速且つ正確な情報を職員に伝え共有化する。 ・Chromebookが各生徒に貸与されているが、アプリケーション関係で双方向性授業が実践されにくい状況である。次年度は、新しいアプリケーションを導入し、それを活用した双方向性授業の職員研修を実施し、授業の活性化を図る。 ・生徒たちの興味以外の経験値が少ない傾向にある。そこで、次年度の知的チャレンジ活動各募集では、積極的に参加を呼びかけて、生徒に多くの経験を積ませる。
		職員に対しオンライン外部講演会等への積極的参加を促し、進路指導に対する意識を高めることで生徒に還元する。	A			
	高大接続改革方針に合わせた授業指導の転換と指導内容の研究	高大接続改革を意識した授業が展開できるよう研修の案内を充実させ、収集した様々な情報を教材フォルダ等を活用して提供する。	B			
		職員研修を通じ、ICTを活用したAL型授業と効果的な評価を職員全員が実践できるように支援する。	A			
	進路指導業務の整理と見直し	各業務内容の記録、保存、整理を徹底し、職員への情報と生徒閲覧室をより見やすく整理する。	A			
		進路関連行事の整理と見直しを実施し、変更できる部分を検討する。	A			
進路部（職員研修）	学習指導要領に則した教科指導力の向上、授業改善	校内授業研究や授業参観・研究授業を通じて教科指導力の向上を図る。	A	A		
		ICT機器を活用した「新たな学び」の実践やアダプティブ・ラーニングの充実に努める。	B			
	校内・校外研修、基本研修、教育実習の確実な運営	各種機関と連携しながら基本研修の確実な実施と研修内容の充実を図る。	A			
		県教育センター等の主催する各種研修会への積極的参加を促す。	A			
	人権教育に関する職員研修の推進	校内職員研修会で人権教育に関する内容を設定する。	A			
		県教育センター等の主催する人権に関する研修会への積極的参加を促す。	A			
進路部（生徒研修）	チャレンジタイム、キャリア教育の確実な運営と生徒の知的チャレンジ活動の推進	適宜、各学年と連携しながら自らの生き方について考えるチャレンジタイムやキャリア教育が効果的なものになるように努める。	A	A		
		日本の次世代リーダー養成塾をはじめとした生徒の知的チャレンジ活動への参加を推進する。	A			
	人権教育の推進	全教科・全領域で人権教育を進める。	A			
		7月と12月に行われる人権教育週間に各学年で人権教育授業を行う。	A			
	図書室の蔵書の充実と利用促進	新着図書の案内や読書週間の実施を通して、読書に親しむきっかけを与え、図書室の利用を促進する。	A			
		蔵書の確実な管理を行うとともに、貸出業務の負担軽減を促進する。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・少子化の時代で生徒募集はどの学校も厳しいと思われるが、県立唯一の中等教育学校の長所をもっと広く知ってもらいたための広報戦略を策定してほしい。 ・輝翔館創立の頃と比べると突出したものがなくなっているように思う。20年前とは輝翔館へのニーズも変化していると思われるので、そこを的確に把握することで、輝翔館自体のあり方について再考してほしい。
A	・福岡県においても1人1台タブレット端末が導入されたが、輝翔館はかなり有効に活用できているのではないか。 ・民間企業でもITの進歩により業務の効率化が進んでいるように、学校現場でも校務支援システムやデジタル採点システムが先生方の働き方改革につながることを期待している。慣れるまでに多少時間はかかるかもしれないが、頑張ってほしい。 ・働き方改革によって生み出された時間的精神的なゆとりは先生方のプライベートの充実や生徒たちとのふれあいに活かしてほしい。
A	・10年に一度の学習指導要領改訂に伴う大学入試制度改革を来年度に控え、大変だとは思うが、生徒の希望進路実現のため先生方には頑張ってほしい。 ・大学入試も多様化しているため、輝翔館が積極的な参加を呼びかけている知的チャレンジ活動は今後さらに有効に働いてくると思われる。しかし、単なるキャリアパスになってしまっては勿体ないので、参加できなかった生徒たちへの還元方法等を工夫してほしい。 ・1人1台タブレット端末の導入により、様々な学習アプリが開発されている。対費用効果も勘案しながら、輝翔館生の実態に適した学習アプリを選択してほしい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒部 （生徒指導）	礼節を重んじた指導を土台とした輝翔館生として望ましい規範意識の育成	挨拶励行、正しい言動、校則の遵守等、輝翔館生としての規範意識と社会性を育成する。	A	A	A	・コロナ禍もひと段落し、生徒は全体的に落ち着いて生活できている。 ・いじめについては、未然防止、積極的認知、早期対応を心がけ、大きな問題に発展する前に対応することができている。 ・携帯電話・スマートフォンの使用に関して、校則違反が数件あった。今後も使用ルール・マナー遵守の徹底を呼びかける必要がある。 ・昨年度から校則の見直しに取り組み、校則検討委員会で生徒・保護者の意見も取り入れながら、校則の改定を行うことができた。校則については次年度以降も絶えず見直しを行い、必要に応じて改定を行っていく。 ・各種検診について職員の協力もあり、滞りなく実施できた。心肺蘇生法の研修をはじめ、職員の危機管理意識の向上に努めていきたい。	A	・新聞報道等でいじめ認知件数の増加が報じられるたびに「なぜ減少しないのか」と憤慨していたが、いじめ認知件数の多さはいじめに対する教職員の感度が高いことの表れであり、いじめの早期発見や早期対応につながっているという認識が持てた。今後も継続してほしい。 ・コロナ禍も一応収束し、学校行事等もコロナ前に戻っていくことになる思うが、コロナ禍で学んだことも多くあるので、そのまま元に戻すのではなく、生徒や先生方の負担軽減の観点からの行事の精選をしてほしい。 ・校則の見直しは大変結構なことである。いわゆるブラック校則は見直すべきであろうが、すべてを安易に「緩く」してしまうのはいかがなものか。少子化の影響か、最近の若者は「我慢力」や「忍耐力」が低下しているとの指摘もある。これらの力をつけさせるのが、小中高の教育の意義でもあると思うので、家庭と連携しながら育成してほしい。
		後期生が前期生を教導する場面を学期に1回以上設定し、生徒集団の持つ自己教育力を育成する。	A					
		携帯電話・スマートフォンの利用マナー徹底と、SNS等に対する正しい理解を育成する。	B					
	いじめの未然防止、早期発見、積極的認知、早期対応	道徳教育や学校行事、HR活動等を通して、良好な人間関係の構築を推進する。	A					
		校内研修・講演等を通じて、学校全体（教職員・生徒）で”いじめを許さない”意識の向上を図る。	A					
		各種アンケート、様相観察、保護者との連携を通して、いじめの撲滅に努める。	A					
	生徒の自主的かつ自治的活動（生徒会活動・委員会活動・ボランティア活動等）の活性化	生徒会・保護者と連携しながら校則の見直し・改定に取り組む。	A					
		生徒会執行部・各種委員会・部活動等の自主的・自治的意識の高揚を図る。	A					
		掲示板や生徒会通信等を利用し、活動状況の提示・周知徹底を図る。	A					
生徒部 （保健美化）	生徒や職員の心身の健康に努め、健全な学校生活を推進する	各種検診を通して、生徒、職員の健康増進を図る。	A	A				
		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員との連携を密にする。	A					
		教育相談委員会を充実させ、早期対応と職員間の情報共有を行う。	A					
	環境教育を意識した美化活動の活発化を図る	日々の美化意識を高め、掃除の徹底を図る。	B					
		ごみの分別、減量をする。	A					
		掃除区域や用具の点検を行う。	A					
	生徒や職員の安全管理を推進する	新たな感染症対策を徹底させる。	A					
		心肺蘇生法、エピペンの使用法など実技研修を行う。	B					
		防災避難訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。	B					
生徒部 （寮務）	寮生自身がより良い居住環境を作れるように、生活態度及び資質の向上を図る	常に自室の整理整頓を行わせるとともに、寮務班職員宿泊時に自室及び寮内の大掃除を実施する。（月1回程度）	A	A				
		貴重品ロッカーの活用、自室の鍵の管理を適切に行うよう指導する。	B					
		スマートフォン・インターネット使用に関する規則を確実に守るように指導する。	B					
	寮内での事故及び感染症の発生を未然に防ぐ	防災避難訓練を実施することで非常時の安全確保に努め、同時に寮生自身の危機管理意識を高める。	A					
		感染症に対する正確な知識を身につけさせ、自らと他者を守る意識、行動の変容を促進する。	A					
		寮務班、生徒部、学年、管理人及び保護者と情報交換を積極的に行い、寮生個々人の状況把握に努める。	B					
	寮生活における充足感の向上を図り、寮生による自主的な寮生活の運営を目指す	快適な寮生活のために寄宿舎管理人、事務部と連携して、生活環境の改善を行う。	A					
		寮長を中心とした上級生が、下級生に対する指導や助言を主体的に行えるよう指導する。	B					
		寮行事に寮生が主体的に参加できるよう工夫する。	A					
第1学年	輝翔館生という意識付けを行い、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる	挨拶・時間厳守などの基本的な礼儀作法やマナーを身につけさせる。	B	A	A	・学校外での活動にも積極的に参加するよう促し、社会性の向上を図る。 ・学習（全教科）に対する意識向上と基礎的知識の習得を徹底する。 ・様々な人の意見に耳を傾け、多様な価値観を受け入れるとともに相手を尊重する姿勢を身に付けさせる。	A	・企業に勤めている立場から言わせてもらえれば、まずは挨拶ができる人材を育ててほしいと思う。生徒の皆さんには、輝翔館での6年間が社会に出る前の修業の場であるとの自覚を持ってほしい。
		輝翔館の伝統行事に意欲的かつ積極的に取り組ませ、自己の役割を全うさせる。	A					
	授業規律の確立と学習習慣の定着を図り、確かな学力を身に付けさせる	授業規律を徹底し、落ち着いて学習に取り組める環境を整える。	B	B				
		チャレンジノートを活用し、自主的・自発的な学習の充実を図る。	B					
	生徒同士の良好な人間関係の育成を図り、明るく安心した学校生活を送らせる	学校生活や行事をとおして、多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。	A	A				
		学年職員との二者面談を定期的に実施し、学校・家庭・関係機関との情報共有を図る。	A					
第2学年	前期課程の中核を担う学年としての意識付けをおこない、基本的な生活習慣の確立を目指す	時間厳守・挨拶・服装頭髪に注意を払い、1年生の模範となるような礼儀・マナーを確立させる。	B	B	A	・多様な価値観を受け入れることができる生徒の育成を道徳や学年行事を通して学ばせる。 ・生徒自身で考えて主体的に行動できる生徒の育成。 ・成績上位層へのさらなる学力向上。 ・全生徒への基礎・基本事項の徹底取得をチャレンジノート以外を活用して取り組む。	A	・学習における基礎基本事項の定着が大切であることは言うまでもないことであり、今後も指導方法を工夫改善しながら継続してほしい。その際、生徒たちが自分自身で基礎基本の大切さに気づき、自主的に学習に取り組む指導をお願いしたい。
		継続的な道徳学習や学年行事をおこない、心身の良好な発達を促す。	B					
		1年生の手本となる姿を学校生活や寮生活の中で示せるように声かけをおこなう。	A					
	授業規律の継続と、学習習慣のさらなる定着に努め、確かな学力を身に付けさせる	授業規律を徹底し、落ち着いて学習に取り組める環境を整える。	A	A				
		オリジナルのチャレンジノートを活用させて、家庭学習の習慣化と学力のさらなる向上を図る。	A					
		成績上位層の生徒に対して、チャレンジノートとリンクして家庭学習に取り組める環境を整える。	B					
	何事にも挑戦する心を持ち、実践させ、安心・安全に学校生活を送らせる	学校生活や行事を通して、多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。	A	A				
		前期課程の中核学年として、リーダーシップの育成と発揮の場を提供する。	B					
		様々な校外活動（体験活動）を通して、知見や考え方の幅を広げる。	A					
第3学年	挨拶の徹底と自律性の涵養	どんな時でもどんな場でも、常識的な行動を選択できる自律性を養う。	B	A	A	・自律性の涵養 →人から指摘されずとも、様々な場で常識的な行動を選択できる生徒の育成を図る。来年度は、生徒会生徒や学級委員を中心に、生徒が主体となって望ましい学年集団を形成したい。 ・学力向上 →基礎基本を叩き込み、学年全体の底上げを図る。また、応用問題（難易度の高い問題）に対する忍耐力をつけ、粘り強く思考し、正解へ近づける、近づこうとする生徒の育成を図る。	A	・校外活動（体験活動）を通して視野を広げることで、将来の夢や目標を意識させることは大切である。今後、さらに充実させてほしい。
		元気でさわやかな挨拶を促し、学校を明るい雰囲気にする。	A					
		交流の機会をたくさん設け、自らの思いを言葉で伝えられるようにする。	A					
	学習意欲の向上と学習習慣の確立	日々の授業に積極的に取り組み、自ら学ぼうとする態度を養う。	A	A				
		チャレンジノートを活用・発展させ、家庭学習の習慣化と学力の向上を図る。	A					
		学力推移調査を活用し、卒業後の進路につながる学習へと結びつける。	B					
	学校行事や校外活動への積極的な参加と視野の拡大	学校行事や校外活動に積極的に参加する雰囲気をつくり、協調性を高める。	A	A				
		前期課程の最高学年として、良きリーダーの育成を図る。	A					
		様々な校外活動（体験活動）を通して、ものの見方や考え方を広げる。	A					
第4学年	基本的生活習慣と学習習慣を確立し、学びに向かう力の育成	時間厳守・挨拶・身だしなみを常に意識させる。また、健康管理への意識を高めさせる。	A	A	A	・講演会や面談を通して、進路意識を高めることができた。 ・後期課程の生徒として落ち着いて学校生活を送ることができた。挨拶等の声が小さいため、気持ちの良い挨拶ができるように取り組む。 ・今後の課題としては、学習意欲を向上させ、学習時間を増やしていくことである。また、学校の中核として学校行事等に積極的に取り組ませる。	A	・オープンキャンパス等の取組については、コロナ禍ではオンラインが中心だったと思うが、やはり現地に赴き、肌で感じることの意義は大きいと思うので、積極的に推進してほしい。
		学習時間と提出物の提出状況の把握を行い、家庭学習習慣の確立を行う。必要に応じて面談を実施する。	B					
		朝礼・終礼・HRの時間で生徒の心の発達を促すような話を適宜行う。	A					
	進路意識の向上と進路目標の具体化を図る	個人面談を実施し、文理選択の考え方を示し、進路意識を持たせる。	A	A				
		オープンキャンパスへの参加を促し、具体的な進路目標を考えさせる。	A					
		進路実現に向けて、各種検定や資格試験などに主体的に取り組ませる。	B					
	生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。	A	A				
		学年、教科担当と保健室との連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。	A					
		学校生活アンケートや面談を定期的に実施し、個々の悩みの解消に努める。	A					
	基本的生活習慣を確立させ、社会性	5分前行動を定着させるとともに、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いができるよう指導する。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
第5学年	基本的生活習慣を確立させ、社会性を育成する	体育大会などの学校行事を運営する学年としての自覚を持って取り組ませ、達成感を体得させる。	A	A	A	・進路意識の向上を図り、学習時間の増加に努め、生徒一人ひとりの第一進路希望の実現を目指す。 ・ルール・マナー順守の必要性を理解し、学年全体で規範意識を高め、社会に適応できる能力を養う。
		公共の場のルール・マナーを順守させるとともに、学習環境を整え、率先して清掃活動に取り組むよう指導する。	B			
	進路実現に向けて、学習習慣の確立を図る	「総合的な探究の時間」における課題研究を通して、思考力や表現力などを育み、学力や進路意識の向上に繋げる。	A	A		
		家庭学習時間を確保させ、小テストや課題をやり遂げる習慣を身に付けることで、更なる基礎学力の向上に繋げる。	B			
		成績不振者に対して正副担任と教科担当の連携のもと、その原因を把握し、十分な指導を行う。	A			
	生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る。	A	A		
		保護者との連絡を密に行い、信頼関係の構築を図る。	A			
		学年、教科担当と保健室との連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。	A			
第6学年	全ての生徒の希望進路実現	進路行事の計画的な運営を通して、生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探求できるようにする。	A	A	A	・6年間の学びをそれぞれの進路先で活かす。 ・社会に貢献できる人材として、不断の努力を惜しまず日々生活していく。
		二者面談・三者面談を継続して行い、進路面での情報提供や情報共有などの適切な指導・助言を行う。	A			
		学年通信の発行や授業を通して、多様な進路希望に応じた進路情報を提供し、情報を共有する。	A			
	進路実現に向けた学力向上と学習習慣の完成	授業と家庭学習の連携を重視し、進路目標達成のための更なる学力向上を目指す。	A	A		
		進路実現を意識した一年間の計画を考えさせ、生徒自身の自主性を重視して学習習慣を完成させる。	A			
		生徒の希望進路や学力について学年・教科担当・部活動顧問等と情報を共有する。	B			
	社会に貢献できる人材育成	体育大会等の学校行事を通して、主体性・自主性を涵養し、自己把握・他者理解を深めることができるようにする。	A	A		
		挨拶や清掃の徹底、服装やマナーの指導をとおし、基本的な社会的技能の自律的習得を図る。	A			
		様々な場面で、最高学年としての振る舞いや言動を常に意識させる。	B			
事務部	教育環境の充実及び改善	魅力ある学校づくりを実現するため、施設設備等教育環境の更なる充実、改善を図る。	A	A	A	・物価高騰に伴い、次年度も県予算がより一層厳しい状況になることが危惧されるが、私費会計についても生徒数減少及びコロナ禍の時からの繰越金の減少により、再来年度の予算執行が厳しくなることが見込まれるため、再来年度に向けて各支出項目毎に内容を検討し、精査していくこととする。
		生徒・教職員の安全安心を確保するため、施設設備の危険箇所の解消に努める。	A			
	事務室業務の効率化	定数削減後の事務室機能を維持するため、各種業務の見直しを図り、業務改善に取り組む。	A	A		
組織マネジメント	教職員の協働及び学校経営への参画	学校重点目標を意識するとともに教育の質を向上させるために、校務運営会議や各委員会の活性化と充実を図る。	A	A	A	・スケジュール管理を徹底し、実施日の1か月前を目途に担当者へ起案の提出を促す。 ・施設設備の安全点検表を改訂し、月1回のペースで点検させる。また、予算が確保でき次第、順次、転落防止用のバーを設置する。 ・直行、直帰時の車両運行前のアルコールチェックを徹底し、飲酒運転撲滅の意識を喚起する。 ・さらなる業務の効率化を達成し、超過勤務時間45時間以上の教職員ゼロを目指す。
		各部運営において、チェックと改善策を講じる仕組みを構築し、PDCAサイクルを確立させる。	A			
		運営委員会で起案した内容を審議するために、先を見通した起案の徹底を図る。	B			
	危機管理体制の確立	生徒に関わる事件・事故の即時報告を徹底させ、適切かつ的確な初期対応をとる。	A	A		
		事故防止のため、日直業務の中に学校施設・設備の点検を取り入れる。不備があればすぐに報告させ、危険の未然防止に努める。	A			
		危機管理マニュアルの内容を職員に周知し、緊急時において迅速かつ正確な対応ができる体制を確立する。	A			
	教職員の不祥事防止、服務規律の確保と働き方改革の推進	校内研修等を通して、全職員に教育公務員としての自覚を持たせ、服務規律を確保する意識を高めさせる。	A	A		
		飲酒運転、体罰、わいせつ行為、情報漏洩等の不祥事防止の意識喚起を行う。	A			
		毎週月曜日の定時退校日等の推進を中心に、業務の効率化を推進し、勤務時間超過の縮減を図る。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・次年度における最大の課題は、志願者及び入学者の減少に歯止めをかけることである。そのためには、SWOT分析（学校を強み「Strength」、弱み「Weakness」、機会「Opportunity」、脅威「Threat」の4つの視点から捉え、全体分析を行うための分析手法）等を取り入れ、教職員全員が輝翔館のあり方についての理解を深めた上で、共通認識の下、広報活動を充実させていく。
・タブレット端末や学習アプリに関する研究を深め、効率的で個に応じた学習指導を確立させる。そのために、ICT支援員等を活用した職員研修の充実に努める。
・働き方改革推進のため、教員それぞれが「この業務、本当に必要ですか？」といえる心理的安全性を作った上で課題を抽出し、管理職は自分の権限で変えられることを積極的に判断する。
・不祥事防止については、長時間労働の放置や睡眠不足が不祥事等の引き金になるというデータもあるため、働き方改革を推進することで未然防止に努める。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・希望進路の実現のためには、金銭面での援助をはじめとする保護者の理解と協力が不可欠である。三者面談や学年通信、日頃の電話連絡等を通じて、教員と保護者の間における生徒に対する視点の共有ができるよう努力してほしい。
A	・創立20周年記念式典や卒業証書授与式に臨む態度の素晴らしさは、6年間の御指導の賜物であったと思う。卒業後の進路は多岐にわたるが、輝翔館での学びや経験を糧にそれぞれの進路での活躍を祈念している。
A	・輝翔館は寄宿舎や通学バスなど他校にはないものが多いにもかかわらず、定数が削減され、御苦労されていると思うが、業務改善を通じて、先生方の過労につながらないことを祈っている。
A	・新聞報道等で教職員の不祥事（飲酒運転、わいせつ行為等）が報じられることが多いが、輝翔館からそのような職員が出ないよう日常的な注意喚起をお願いしたい。

評価項目以外のものに関する意見
・輝翔館の充実発展のためには地域と協働が不可欠である。コミュニティースクールの縮小版でもよいので、輝翔館と地元の小中学校や行政、近隣住民とが一体となって、地域活性化及び学校活性化に結びつく取組を考えてほしい。